

現代日本語における助詞ガの「誤用」

— 「総記の拡大用法」と「とりあえずの格表示」 —

揚 妻 祐 樹

Ⅰ 論点—格助詞ガの「誤用」について—

たとえば希望をあらわす助動詞タイについては、述部に係る格成分として「買い物(が/を)したい。」のようにガとヲのゆれが認められることがよく知られている。この問題は、ガと他の助詞を選択した場合の意味の違いから見る方向と、助詞の揺れを許す述語と許さない述語の意味環境の違いから見る方向と、両面が考えられる。

ヲ—ガの選択のゆれが生じる条件としては、第一にタイが接続する動詞がヲ格を取るものでなければならない。「ゆっくり休む→ゆっくり休みたい」などはそもそもヲ格を取らないためにこの現象は生じない。

第二にヲとガとは係り先が異なる。「買物を」は「し」のみと関係し、「買物が」の場合は「したい」全体と関係すると解されるのである。

- ① 買物をしたい。
- ② 買物がしたい。

第三に、このような助詞の係り先に複数の可能性があるためには、述部に動作をあらわす側面と状態を表す側面との両面を有していなければならない。たとえば「買物をしたい」の場合、動作概念「買物をする」とタイが表す心的状態の概念との両面があり、このためにそこに係る格成分を表示する格助詞に揺れが生じる。～ヲは述部の動作概念に対して、～ガは述部の状態概念に対して係るわけである。

こうした両面性はタイ以外にも次のような表現において見られる。

<可能動詞>

- ③ そう、東京に高層マンションが買えればいいなど（日本語話し言葉コーパス CSJ D03M0053-R 講演者 ID251 男 20-24 歳 1975-79 年、なお読点は適宜揚妻が加えた、以下同様）
- ④ (…) 向田さんが好きで取り寄せていた食べ物を買えるというのが魅力なんですよ。（現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ OY14_05547 Yahoo! ブログ 2008）

<～ヤスイ、～ニクイ 「AガBヲ+V」にヤスイ・ニクイ接続した場合で、Bヲの部分に揺れが生じるケース>

- ⑤ 特別席の人しか入れないピットワークなので、写真が撮りやすい。（BCCWJ OY15_05930）^(注1)
- ⑥ (…)花がたくさん咲いていても1つ1つが離れていて写真が撮りやすいです(^^)（BCCWJ OY03_05103 Yahoo! ブログ 2008）

- ⑦ 休みが取りにくい日本人向けに、七日間のクルーズが作られたことがあるが、(…)
(BCCWJ LBr2_00039 西森有里『ペンギンと泳ぐ旅』NTT出版2003)
- ⑧ (…)「職場の周囲の人が取らないので年休を取りにくいから」(同四十八、四%)
となっている。(BCCWJ OW6X_00230 厚生労働省監修・日本労働研究機構『労働経済白書』2003)

<～オワル「AガBヲ+V」にヤスイ・ニクイ接続した場合で、Bヲの部分に揺れが生じるケース>

- ⑨ 三種の茶が飲み終わったところで、執筆が棗の蓋裏をあらためて各客の当否を判定し(…)(BCCWJ Lbt9_00040 井ノ部康之『利休遺偈』小学館2005)
- ⑩ 俺はその1杯のうどんを食い終わるとすぐさまもう1杯おかわりしたほです。(BCCWJ OY14_14006 Yahoo! ブログ2008)

可能動詞、～ヤスイ・ニクイ、～オワルなどは、いずれも主体の意図的な動作概念と状態性(それが可能であること、状況的に可能性が高い/低いこと、終了した状態であること)をあらわすものであり、もとの文型ではヲ格だったものがヲ格とガ格のゆれが生じる表現となっている(注²)。

さらに継続相(テイル形)の形でガーヲの選択のゆれが生じる動詞がある(注³)。⑪は「売る」の例、⑫「やる」例である。

- ⑪ お店でイチゴ(を/が)売っている。
- ⑫ いつものドラマ(を/が)やっている。

この場合、動作主が何かを「売る」、ないし動作主が何かを「やる」という動作概念があったものが、この動作概念が希薄になり(つまり動作主の動作性が後景化し)何か売られている状態、何か催されている状態を表わす表現的要素が認められる。このためにヲーガのゆれが生じているのである。

しかし以上のような見方では決着がつかない次のようなガの「誤用」もある。

- ⑬「(大相撲で優勝した徳勝龍について)(…) 左四つが [を] 勉強して (…)(張本勲、サンデーモーニング TBS系 2020.2.2 放送)

「～勉強して」などがあらわす事態は、主体の動作であり状態ではない。現段階においてこうした用法は、誤用、言い間違いのレベルではあるが、しかし日本語母語話者としての感覚として、筆者には近年よく耳にするようになった言い方のように思われる。(注⁴) このような「誤用」はどのように生じるのであろうか?

本稿では、動作主体ではなくそれ以外の要素がガによって提示され、しかも述語が状態性述語ではなく、動作性述語であるような「誤用」について、その構文的特徴と、こうした表現が生じる社会的背景を探ることを目的とする。

II 気になるガの「誤用」の整理

筆者が気になる誤用として採集しているものは、述語に「～タイ・ヤスイ・ニクイ・オウル」など状態化しやすい接尾辞・助動詞が接続していないもので、格関係から考えればヲ格、ニ格などが格以外のものであるべきものがガ格になっているものである。

- ⑭ (デトロイト・タイガースとしては、有力投手である) この二人が投げていない試合が勝ちたい。(メジャーリーグ・ア・リーグ優勝決定シリーズ第1戦、デトロイト・タイガース V.S. ボストン・レッドソックス NHK BS 2013.10.13 放送) (53 は揚妻祐樹 2014 の用例の再掲) デ→ガ
- ⑮ (好きな人に送るメールがうまく作れません。長く続けたいんですが、どうすればいいですか? コツは? という問いに対する答え)
長いメールが送りたいのか、メール交換を繰り返したいのか、どちらか分かりませんが、最後に疑問形にすれば、相手から返事が返ってきますよ。「～なの?」と聞けば、相手のこともっと知る事ができます。(BCCWJ OC09_12611 Yahoo! 知恵袋 2005) ヲ→ガ
- ⑯ 何かあたし英語は普通に喋るんですけど、私は耳からやっぱり覚え、う、う、英語が多分音として聞いてきたタイプなので感覚しかないです (CSJ D03F0040-L 講演者 ID1377 女 30-34 歳 1965-69 年) ヲ→ガ
- ⑰ だからこれはもう、自分のここ、テープが切ったとこにやればいい。(日本語日常会話コーパス モニター版 (CEJC と略す) T007_007) ヲ→ガ
- ⑱ 事件当日、八島が面接した (=八島が面接を受けた) 会社が見つかった。(映画『麒麟の翼』) ヲ→ガ
- ⑲ まあ、これ、当分続くよ、うーん、うーん、大体ね、恐竜が飽きるのが三年か四年なんだって。あたし友達の孫がね、やっぱりね、坂本さん、あたしね四年生まで付き合わされたっつうの。恐竜に。(日本語話し言葉コーパス CSJ T003_010 65-69 歳 女性) ニ→ガ
- ⑳ でも、あ、だから飛ばしたのかな。いや、や。そこはない。や。だ。アニメが端折ってんの、可能性も、アッ、あるんじゃない。(CEJC T010_003) ヲ→ガ
- ㉑ あー、でも、あれか。今シートが貼ってない面と溝の向きを揃える。シート、シートの貼ってない面。(CEJC T001_002) ヲ→ガ
- ㉒ (松本人志) (マンガ『あたしんち』についている応募券で目覚まし時計がもらえることについて) これが、送って来んのが僕の唯一の楽しみ。(ワイドナショー フジ系 2020.2.9 放送) ヲ→ガ
- ㉓ 野村萬斎 (狂言師、能舞台が楽器の要素もあるということについて) 「(…) 能舞台の下に響があったりして、もう、ほんとに、シンプルだから、こういうところで (足を踏み鳴らす) 音がさせる構造になってるし、飛ぶときも (飛び上がってドンと音をさせて飛び降りる) って風に、まあ、落ち方に意識をさせますねえ。」(羽生弓結 × 野村萬斎 表現の極意を語る NHK BS 2015.12.30 放送) ヲ→ガ
- ㉔ 床の演技が緊張した村上選手。(体操世界選手権 in ドーハ テレビ朝日系 2018.

11.2 放送) デ→ガ

- ②⑤ただ薬には副作用もあります。新しいお薬の場合は稀ですが、重大な副作用が出る可能性もあります。経過観察がとっても大事なんですね。経過観察がする場合、ウイルスのタイプ、あるいは肝臓の状態など細かく調べて、薬の量などを調節しなければいけないので…(ためしてガッテン 3分間で8割減 肝臓がん撲滅SP NHK 2014.11.12 放送) ヲ→ガ
- ②⑥[柿の木から落ちてガラスが刺さって病院に担ぎ込まれた話]ただその後、何か、ん、電動鋸で頭を、を切られんのかなと思って、怖かったっていうのが覚えてますね(CSJ D03M0004 - R 講演者ID471 男 25-29 歳 1975-79 年) ヲ→ガ
- ②⑦(張本勲・相撲の取り組みの予想をして)「長引いたら白鳳では? いろんな技が持っているから」(サンデーモーニング TBS系 2015.3.29 放送) ヲ→ガ
- ②⑧(マツコ・デラックス 好みの餃子の触感について)「(…)すごいカリモチ(カリカリとモチモチの両方の触感を合わせ持つ)という感じの、それがはまってるの」(マツコ&有吉の怒り新党 2016.6.29 放送) ニ→ガ
- ②⑨(韓国美容整形の事情を紹介、国営の案内所で病院紹介のタッチパネル画面を見ながら、スタッフが説明するアテレコ)「病院が紹介してるんです」(未来世紀ジパング テレ東系 2016.8.22 放送) ヲ→ガ
- ③⑩(桂米丸)「嬸家のねえ、なんというか、あたし自身言えることなんだけどね、これはねえ、わたしも腰かけてやってるんでね、手をここにね、あの釈台置いて、だけどこれはね、最後まで嬸家はやっぱりしゃべっていたい、そういう気持ちがみんな持ってるんでね。」(ファミリーヒストリー 桂歌丸 NHK 2017.12.20 放送) ヲ→ガ
- ③⑪あたしはあの晩電話ボックスを覗いた。電話帳のボリスのページが開けていて(=開いていて)、強い魚の臭いがした。(主任刑事モース 第1回 NHK BS 2019.11.23 放送)
- ③⑫で、一番いいのは、やっぱり、そういう、やってる方にマニュアル作ってもらうことなんですよ、こういうことでどうやっていいですかねって、何かマニュアルみたいのありますかって言うと、その人が自分のねた帳とか持ってるんですね、うーん、それで、あーのー、こういうふで、結構やっぱ、それがね、あの一、う、見せてもらったりお借りして、でまた、おん、それを元におんなじ業界のプロの方に聞いたりすると、そうすると、スタートラインがもうある程度、お、お互いに共通点があったりすると、業界用語とかは分かる訳ですよ(CSJ D03M0013 - R (講演者ID790 男 35-39 歳 1965-69 年) ヲ→ガ
- ③⑬ほら、もう、そうゆうホラーがやめて。やめて、そうゆうの別に、うち欲してないから。(日本語日常会話コーパス CEJC と略す K003_012b) ヲ→ガ
- ③⑭お膝の上にパレ、あの、あれがこぼれないように。うん。おズボンが汚しちゃうといけないので。(CEJC T007_007) ヲ→ガ
- ③⑮(米長邦雄、A I 対トップのプロ棋士との将棋の対局について)今回の条件でプロがある程度の時間をかけてですね、見落としがしないように、普通にさせばですね、

- その一、精神状態もです、プレッシャーなんかそんなに感じないで平素の実力が発揮できればプロが勝つと思いますね。(運命の一手 将棋渡辺竜王 VS 人工知能ボナンザ NHK 2007.4.21 放送) ヲ→ガ
- ③⑥ 高木久助 (廣久葛本舗 10 代目) 「お客さんが喜んでもらえるんです」(月曜から夜ふかし 日テレ系 2013.11.25 放送) ニ→ガ
- ③⑦ (『ああ、野麦峠』で製糸工の少女が野麦峠から故郷の飛騨の国を見たシーンについて、マツコが実際に野麦峠に行ってみたら飛騨の国は見えなかったことについて) マツコ・デラックス：だ、あれは、だから苦しかったね (うん：村上信五)、主人公の女の子が (うん) 見えちゃったんだらうね (そういうふうに見えてしまったんや) そう、もう峠が越えて、だから、よ、要は、飛騨の国に入ったわけだから、ああ、ふるさとの国に帰って来たというので、夢を、あの、幻想を見たって話しなだらうなっていう解釈をしたんだけど、見えなかった！(月曜から夜ふかし 日テレ系 2914.9.1 放送) ニ→ガ
- ③⑧ (コウケンテツ) この地域の家庭ではマグロの身より骨のアラの方がよく食べるそうです。(アジア食紀行 コウケンテツが行く台湾 NHK BS 2015.12.20 放送) ヲ→ガ
- ③⑨ (コウケンテツ) 「南部ではフォーよりフーティーの方がみんなよく食べるんです」(アジア食紀行 コウケンテツが行くベトナム 2016.1.9 放送) ヲ→ガ
- ④⑩ (グラビアアイドル杉原杏璃・ファンのプレゼントの気遣いについて) 「ファン同士が被らないように、今週は僕がこれが送るからっていうふうに、ちゃんと考えてくれてて、(…)」(有吉反省会 2 時間スペシャル 日テレ系 2016.8.20 放送) ヲ→ガ
- ④⑪ (有吉弘行、香港のアクションスター、ドニー・イエンが好きでゲストの飯干景子に) 「そもそも、何でそんなにドニーさんがはまったんですか？」 ニ→ガ
- ④⑫ ビール類が大幅に値上げするんです。(イチオシ 北海道テレビ 2017.6.1 放送) ヲ→ガ
- ④⑬ (高級時計マニアの交流会で、店主が客との商談で勧めようとしている時計を紹介する)
マツコ・デラックス：どんな感じのものが最終候補に挙がっていますか？
店長：いまの、一つ、すごいのが隠し持っています。
(マツコ会議 時計愛に溢れる桁違いのセレブ続々！日テレ系 2017.12.23 放送) ヲ→ガ
- ④⑭ (松本安太郎) 「(市販の弁当の量が多いか少ないかという話題で) バランスがうまくとってくれるといいなと思いますね。」(あさチャン TBS系 2018.1.30 放送) ヲ→ガ
- ④⑮ (小林弘幸・順天堂大学医学部教授) やっぱ、こう、音楽を聴くとか、ま、もの、何かの音を聞くとか、それから、歩くとかね、ま、こうゆうような、パワースポットとか、じゃあ、ルーティーン、ま、こうゆうことが、やると、何がいいかっていうと、やっぱりね、呼吸がね安定するんですよ。(趣味どき！ 自律神経セルフケ

ア術 第2回 疲れが変わる NHK Eテレ 2018.8.19 放送) ヲ→ガ

- ④⑥ (コウケンテツ・さんまの生姜蒸しをふるまいながら) 骨が気をつけてください。」
(びいコン NHK 2019.9.20 放送) ニ→ガ
- ④⑦ (高校野球のピッチャーの球数制限について)「(…) 議論が呼びましてね、(…)」 (NHK 朝のニュース 2019.2.21 放送) ヲ→ガ
- ④⑧ (レッスンを受講した高校生・男子) 食べる人のことを考えると、妥協しないこと、あー、あと愛、作るときに、あの一、気持ちを込めて作るという…、ことが学ばれました。 (「奇跡のレッスン パティシエ、ジャン＝ポール・エヴァン」 NHK 2020.1.31 放送) ヲ→ガ
- ④⑨ 杉下右京 (刑事)：僕は如月リゾートの押田課長を殺害したのはあなたではないと思っています。
鶴橋宗一郎 (容疑者)：何が言い出すかと思えば…。殺してなきゃ自首なんてするわけないだろ！ (相棒 18 18 話「薔薇と髯の間に」 テレビ朝日系 2020.3.4 放送) ヲ→ガ
- ⑤⑩ (河野臨九段、囲碁棋聖戦初戦、敗戦のコメント)「ちょっと、二日目に入ってから、ちょっと、く、悔いの残る手が、お、多く打ってしまったので、そこがちょっと、はい、反省、反省ですね」(激闘！ 第44期囲碁棋聖戦ダイジェスト NHK BS 2020.3.15 放送) ヲ→ガ

このうち、④⑩はタイ構文、④⑥～④⑨は連体修飾節 (あるいはそれに準ずるもの=④⑨) であり、④⑥～④⑩はテイル形であり、いずれも概念が状態化しているとは言えるが、熟した表現とは言い難いだろう。そしてそれ以外の例文を合わせて考えると、ガ格への移行が述語の状態化ということでは解釈ができない事情を考えなければならない。

III 誤用におけるガの機能

1. 「誤用」とは何か？

前節でみた「誤用」について考える前に、一般的に「誤用」とは何かについて考えたい。誤用を単なる規範からの逸脱と考えるのは誤りであろう。アンリ・フレエは規範形が必ずしも表現の合理性を持たない事例を紹介しつつ、「誤用の出現は、そのはたすべき機能 (より大なる表現性、より大なる明晰、より大なる経済など) によって、多かれ少なかれ無意識的に決定されている。」という^(注5)。たとえば今日の日本語の代表的な「誤用」である「ら抜き言葉」についていえば、

- ・語形が短くなる (見られる→見れる)
- ・レル・ラレルのもつ可能の意味と他の意味とを形態的に区別できる
見れる=可能/見られる=尊敬・受身
- ・五段動詞の可能動詞形と同じ原理で可能表現を作れる (走る→走れる、見る→見れる)

といった合理性（表現性、明晰、経済）が認められる^(注6)。前節の「誤用」もある程度の頻度で現れるならば、なにがしかの合理性が無ければならないだろう。

2. 誤用における卓立の意味—「総記」と「とりあえずの格表示」—

「誤用」においては、格関係を無視して特にガによって表示する、何らかの意味があるはずである。それは何か？

一つ考えられるのが「総記」である。⑳㉑の例は二つの可能性のうち一方を選択する（㉑身ではなくアラの方、㉑フォーではなくフーティー）ものである。また㉒の例はプレゼントが他と被らないように特に自分は他のものではなくこのプレゼントを贈る、という意味である。これらのガは格関係を捨象してガにもっぱら総記の意味を担わせる用法であろう。これを「総記の拡大用法」と名づけよう。

しかし、総記という意味を認め難いか、認めなくても文として理解が可能な用例も多い^(注7)。たとえば、㉓の例は料理研究家コウケンテツが料理を振舞う際に気をつけてほしいもの（骨）について述べている。「骨」をガ格で表示しているわけだが、他のなにものでもなく「骨」こそが気をつけてほしいものだ、という意味合いは無いだろう。こうしたガの「誤用」はどう解すればよいか。

日本語の格成分の語順は融通無碍であって、必ずしも最初に現れる格成分がガでなければならないわけではない。しかしそうはいても自然な語順というものはあるはずである。佐伯哲夫は、伊藤整『汜濫』（五章まで）の会話文を計量調査したところ、格成分の語順は次の通りになるケースが多いという（佐伯哲夫 1975）。

位格（トキ・トコロ）→主格→予格→対格

このうち位格は副詞にちかく時や場所を設定するものであり、動作概念の舞台づくり的な性格を持つのに対して、それ以降の格は動作そのものにかかわる格と言える。つまり直接的な動作概念を表現する格のうち最初に表れるのが主格（ガ）ということになる。主格が動作概念の中で最も重要な情報であるからであろう。

ガ格以外の格成分を最初に持ってくる場合、話者にとってそのセンテンスの中でその格成分が最も気になっている事項である場合であろう。㉔の言表は自然であろうが、㉕の場合、「次郎に」のところを特に強調しているニュアンスがある。

㉔太郎が 次郎に ラーメンを おごった。

㉕次郎に 太郎が ラーメンを おごった。

そして㉔のような語順が自然であるとするならば、㉕のような表現をするためには、まず㉔のように、まず各名詞がどのような格関係で動詞に関係するかを一旦把握したうえで、それを組み替えて㉕のように表現するという、やや手の込んだ操作が必要になる。つまり、㉕のような表現が可能なのは、名詞と述語との格関係が発話の前に把握済みで、それぞれの格成分をどのような述語で言い収めるか十分に準備が出来てい

る場合である。この準備ができないまま、当面の関心事を、文において主要格成分の最初に来やすいガ格で表示する（このとき主格表示のガという意味は閑却される）、という場合に㉔のような「誤用」が生じるのではないか。つまり当面の関心事をとりあえずガによって表示したのが㉔のような例ではないか。あるいはとりあえず名詞をガで表示して、話しているうちにそれを文法的に自然に言い収められる述語を探していて、それに失敗すると㉔のような「誤用」が生じる、ということなのかもしれない。これを「とりあえずの格表示」と名づけよう。

「とりあえずの格表示」の場合、あらかじめそれを焦点化しようと意図して発話するとも限らないし、まして総記の意図をもって発話するとも限らない。

3. 「総記の拡大用法」、及び「とりあえずの格表示」が生じる心理的・社会的背景

こうした「誤用」が生じる心理的・社会的背景とは何だろうか。まず「総記の拡大用法」から考える。

久野暉 1973 は助詞ガについて、主格としての機能と「総記」としての機能を認めるが、総記の機能はガ格以外でもあり得る。

㉓今日は、うなぎを食べたんだ。（カレーライス等他の食べ物ではなく）

㉔私は、横浜に行ったんだ。（東京等他の場所ではなく）

㉓、㉔の下線部の箇所が、（ ）内の文脈の下で発話されているのであれば、その格成分における総記の意味を強調することができるであろう。しかし、おそらく他の格助詞ではなく特にガに総記の意味を認識しやすいのであろう。たとえば座安浩史 2015 は、石垣市ウチナーヤマトウグチ（沖縄の人が標準語を話そうとするときに生じるウチナーグチとヤマトウグチの混交言語）で、ガを副助詞として用いる用法を指摘している。

- ・蛇が ガ 怖い。
- ・その本は家に ガ ある（用例は座安浩史2015より）

このガは「他でもなくそれこそ」といった意味であるが、共通語のガの格助詞的機能を捨象して総記の意味だけを特化したものと理解することができる。ガにこのような用法の転化が生じるのは、他の格助詞ではなく特にガに総記の意味を認めるからであろう。「総記の拡大用法」のガもまた、他の格助詞ではなくガに特別に総記の意味を認めている用法と解される。動詞との格関係よりも総記であることを強調しようとする時に「総記の拡大用法」が生じるのであろう。

では「とりあえずの格表示」の場合はどうか。

人がものを話すとき相応の準備をしておかないと流れるようによどみなく話すという事は不可能であろう。話す前に内容を練り上げたくて話さなければ、たいいていの場合、情報の重複、言い直し、言いよどみ、前後の不整合などを避けることができ

ない。文法においても同様で、事前に文法上の正確さを確かめて置かなければ、規範文法からの逸脱は免れない。

取り直しのきかないテレビの生放送の場合は、事前の準備ができない状況の一つである。司会、コメンテーター、インタビューを受ける人は短い時間内に、さほどの準備時間もない状況で話さなければならない。生放送でなくてもカメラの廻っているところで話す時には、自身の言葉をよく練り上げて話すということではできない。こうした状況下では文法的な正確さを確認する余裕はない。そこで、もっとも格助詞の中で代表的と感じられるガによって、とりあえず当面の関心事であるものをガで表示しておいて、言いながらそれを言い収める述語を探すということが行われるのではない。結果として格関係が奇妙な発話になってしまうということが考えられる^(注8)。

テニヲハの混乱については、LINEやTwitterなどSNSの発達も無視できない。こうしたツールを用いたコミュニケーションの場合、「読み込めてなくても早く反応することを重視する」^(注9) という事情が関係しているであろう。

IVガによる表示の自然らしさ、不自然さ

1. テイル型の場合

「誤用」の不自然さが目立つのは、述語の概念が状態ではなく動作をあらわすにもかかわらず、主体の動作の対象をガで表示する場合であった。言い換えれば、仮にとりあえず念頭に浮かぶ関心事をガで格表示をしたとしても、状態性を帯びている述語によってうまく言い収めることができたならば、結果として自然な言表となるはずである。

しかし何をもって「状态的」と言えるのか。この点については目下のところはつきりしない。揚妻祐樹 2014 では主に動詞ヤルについて考察した。ヤルは、本来はヲ格をとともう他動詞であるが、テイル型にすると許容量が上がる場合がある。

⑤⑤韓流ドラマがやっている。

⑤⑥今日はお店がやっていない。

⑤⑦この店では今日から冷やし中華がやっている。

「韓流ドラマをやる」の場合はだれかが韓流ドラマを制作する、ないしは放送として流すという意味であり、「お店をやる」の場合はだれかがお店を経営するという意味であり、「冷やし中華をやる」の場合はだれかが冷やし中華を料理として出すという意味で、いずれも誰かの主体的行為を意味するが、⑤⑤、⑤⑥、⑤⑦はそれぞれ「韓流ドラマが放映されている」「お店が開いている」「冷やし中華がメニューとして出されている」といった意味になるだろう。これらの表現に共通するのは、確かに事態を生じさせるのは誰かの主体的動作ではあるが、その結果として生じているもの（ドラマの放映、開店された店、メニューの記載に冷やし中華があること）においてはもはや動作主体が消えていることである。

「売る」についても同様のことが言える。

⑤⑧この店ではイチゴが売っている。

「イチゴを売る」の場合は誰かがイチゴを売るのであって、主体的動作だが、その結果として、イチゴが店頭と並んでいる状態になったときにはもはや売の動作をする主体が消えている。これを「主体の後景化」と名づけよう。そして、ヤルやウルという動詞にテイルという状態化する表現が接続すると、動作主体が後景化して、動作の結果としての状態の側面が前景化されるようである。

なお、複合サ変動詞についていえば、テイルが接続しなくても動作の結果の状態の側面が前景化されるようである（用例⑤⑨～⑥④はBCCWJより）。

「紛失する」

- ⑤⑨もう一つ、興味深い事実はそもそもAはマンションの自動ドアを開けるカードを紛失して持っていなかったため、(…)小林潔『ガサ!』徳間書店2004
- ⑥④寺崎は、一千万円が紛失したと主張しているのである。斎藤栄『湘南殺人事件』光文社1992

「開店する」

- ⑥①(…)、二〇〇三年にはJR札幌駅にレストランを開店することになりました。北海道新聞社編『発信北の食材』北海道新聞社2002
- ⑥②(…)、台湾は今後3年のうちに、20余のショッピングモール開店すると予告している。『台湾の流通事情』交流協会2001

「オープンする」

- ⑥③横須賀に営業拠点のなかった東海丸万証券が支店をオープンするため、地元を根を張った山一横須賀支店の社員をまとめて採用したのだった。読売新聞社会部『山一証券役員たちの背信』新潮社2001
- ⑥④昭和62年から63年は日本国有鉄道（国鉄）からJRが発足したり、東京ドームがオープンした年でもありました。東京都清瀬市「市報きよせ」2008年3月

一方テイル型になっても、それが主体の状態を表すものである場合（主体が後景化しない場合）はガへの交替が起りにくいようである。②⑥「覚えている」（主体の記憶）、②⑦③⑩「持っている」（主体の所持）、②⑧「はまっている」（主体の心的状態）、②⑨「紹介している」（主体の言表）はもっぱら主体の状態でありその結果が残存する（主体が消える）と解しにくい。その結果ガへの交替が不自然になるのであろう。③①「開けている」は、開いた状態が残存するという解釈が成り立ちそうである。この場合は、「開ける」という他動詞に対して「開く」という自動詞があるために「開ける」を状態性概念として考えにくいという事情があるのかもしれない。

⑤⑤～⑤⑦のような例はおそらく最近現れ始めた例であろう。テイル形になることで主

体の動作が後景化する可能性を秘めたものは他にもあるはずである。そしてそれは、現在は不自然な表現であったとしても、それが習慣化していくことで自然な言表として受容される可能性がある^(注10)。

2. タイ構文の場合

テイルにみた状態性への移行の原理（主体の後景化）は必ずしもそれ以外に及ぶわけではないようである。たとえばタイ構文ではこの原理が働かない。タイ構文はタイの上接部の動詞が表す動作概念と、タイという希望（心的状態）とを合わせ持つ表現であるが、タイは主体の希望を能わす表現であり後景化しようがないからである。ガへの移行は別の原理が働いていると考えなければならない。

タイ構文を細かく見ると～ガ+V+タイの構文において、ガ格をとる場合の自然らしさに差がある。「水が飲みたい」などはごく自然な文である。一方「あの岩壁が登りたい」はあまり自然とは言えないであろう。

ではどのような場合に～ガ+V+タイの形が自然らしくなるのか、ならないのか？この点については庵功雄 1995 の議論である。庵はタイ構文における格助詞のヲとガの交代現象（庵は「ガーヲ交替」と名づける）について、「ガが極めて限られた語彙・構文上の環境にしか現れない」と指摘する。庵はその環境条件をいくつか挙げるが、このうち本論と最もかわりがあるのが「意味的制約」においてあげられた「他動性」である。「他動性」は他に対して働きかける性格といった意味であろう。他動性の高い、低いを受け身構文に変換することでテストができると、庵は考える。他動性の高い「殺す」「壊す」は受け身構文が作りやすいのに対して、他動性の低い「飲む」「食べる」などは受け身構文になりにくい、という。

- ・ 健が勇を殺した → 勇が健に殺された
- ・ ??太郎はケーキを食べた → そのケーキは太郎に（よって）食べられた（例文は庵功雄 1995 より）

なお庵は「～食べられた」の文に「??」とクエスションマークを二つ付けているが、筆者の語感では「食べられた」なども構文的には自然な日本語と感じる。ただしこの文は、動作作用を受けた対象「ケーキ」についての言表というよりも、ケーキを食べられる、という発話者の迷惑を言表していると思われる。つまり受け身のありようが「殺された」とは異なるのである。

そして他動性の高い動詞の場合「ガーヲ交替」が起りにくく、他動性の低い動詞の場合「ガーヲ交替」が起りやすいと指摘する。「ケーキが食べたい」は自然な日本語になるが「勇が殺したい」（勇を殺したい、の意）は不自然な日本語となるわけである。庵の議論については、筆者は基本的に賛成である。

問題は、なぜ他動性の高い動詞の場合「ガーヲ交替」が起りにくく、他動性の低い動詞の場合起りやすくなるのか、という問題である。「～ガ～ヲ+V」という文型におけるヲ格にも種々のものがあるが、当面必要な分類は、主体が自身の身体や心

理の外部にある対象に対して働きかけるか、否かである。俺はそれを「他動性」という語で表したが、ヲ格で表示されるものうち、それではどんなものが他動性の対象であり、どんなものが他動性の対象ではないのか？

俺の挙げる、他動性の高い動詞とは「殺す」「壊す」などである。これらは主体の外部に働きかける対象があり、主体はそれに対してなにがしかの変形作用を及ぼしている。一方「食べる」「飲む」など飲食を表わす動詞は他動性が低いとされる。これらは主体が食べ物、飲み物という対象物にたいして働きかけるとも見られるが、その結果として主体の体内に取り込まれるものであり、言い換えれば、主体が対象に対して働きかけた結果が外部に残存はしない。このようなものを「他動性が低い」と見なされるわけである。同様に知覚や受信を表わす動詞の場合も、ヲ格は結果的に主体の内部に取り込まれるものであって、それが対象物として主体の外部に残存するものではない。この場合もまた「他動性が低い」と見なされる。つまり、他動性とは第一に主体の動作であり、第二に他に対する働きかけである（働きかけの対象がヲ格で表示される）。そのために働きかける対象物が主体に外在する対象物であり、あり続けなければならない。主体の中に取り込まれるもの（飲食物）やそもそも主体の内部にあるもの（知覚など）は他動的な対象物とはみなされない。

「する・やる」の場合ヲ格が動きの対象物を表わすわけではなく、動作の内容そのものを表現する（テニスをする／やる、勉強をする／やる、等）ものである。これもまたヲ格の働きかけた結果対象物が外部に残存する表現ではない。

このように見た場合、他動性とは「主体→対象」という方向の現実的な動きそのものであり、この対象を失っている表現が、他動性が低いと見なされる、ということになる。

俺は他動性が高い動詞のほかに、「ガーヲ交替」が起こりにくいものとして「補文のヲ格の意味的役割が「対象」以外」の場合をあげる。具体的には次のような例である。

- ・わたしは早くこの電車（を／*が）降りたい。
- ・危険地帯である日本（を／*が）出たい気持ちはよく解った。
- ・人間の本能のようなもので、空（を／*が）飛びたい、山の頂上に立ちたい、と思うことがあるでしょう」（以上の用例は庵功雄 1995 より）

確かにこれらのヲ格は動作の対象というよりも動作が行われる場所を表わすものであり、この意味では、動作の向かう「対象」ではない。しかし「電車」にしる「日本」にしる「空」にしる、これらは主体の外部に措定されるものであり、動作の結果としてその対象が失われるわけではない。この点で「～を殺す」「～を壊す」と共通しているということができる。

国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）を用い、～ガ＋V＋タイを中心について調査した^(注11)。調査は次の手順で行った。調査の手順は以下のとおりである。

- (1) 「語形式：ガ+品詞：助詞」×「品詞：動詞」×「語形式：タイ+品詞：助動詞」で検索。
- (2) 本研究の趣旨に合わないものを排除。
- ・接続助詞のガ
 - ・～タイが接続しない元の構文において～ガであったもの 私がする→私がしたい
 - ・タイが希望の助動詞以外のもの（九州方言の断定の助動詞タイ、「痛い」「冷たい」などの形容詞、国名のタイなど）
 - ・構文的に～ガがVタイの格成分になっていないもの
例：右脳のな<ひらめき>が(=係り) 書きたいことをリードしてくれない (=受け) からである。
- (3) ～ガ+V+タイにおいて頻出するVと（あまり／全く）現れないVのいくつかを選び、～ヲ+V+タイの出現状況と比較する。^(注12)

表1はBCCWJにおける～ガ+V+タイの動詞別の表である。飲食は自身の身体内に対象を取り込む動作だが、取得（取る、貰う、買う、等）、保持（持つ、等）、生産（作る、詠む、等）、装着（着る、履く、等）も自身の支配領域にモノを置く行為であり、これに準じると考えられる。知覚、受信もまた自身の内部に対象を取り込む動作と考えられる。情報の発信、や「する、やる」は、ガで表示されたものがその動作の内容であり、外的対象物とは言い難い。こうした種類の動詞において、元のヲ格がガ格に転じやすいようである。

表1 動詞別の～ガ+V+タイの例の集計（BCCWJによる）

動詞の種類	動 詞	個 数
飲食		563
(内訳)	すう (吸・喫、等)	25
	飲む	100
	食う	24
	食べる	414
取得・保持・生産・装着		129
(内訳)	いただく	7
	かく (書・描、等)	26
	つかむ	1
	つくる (作・造)	4
	とる (取・撮、等)	30
	詠む	1
	稼ぐ	1
	作る	15
	飼う	6
	持つ	3
	借りる	3
	生む	6

	着る	12
	釣る	2
	得る	2
	買う	4
	貰う	5
	履く	1
		217
情報発信	いう（言）	206
（内訳）	おっしゃる	4
	語る	2
	書く	2
	伝える	1
	話す	2
		984
知覚・情報発信	うかがう	1
（内訳）	きく（訊・聞、等）	226
	見る（見・観、等）	361
	尋ねる	1
	知る	364
	詠む	29
	味わう	2
		696
動作内容+ガ+動詞	する	614
（内訳）	やる	82
		62
その他の種類	使う	11
（内訳）	つける	3
	弾く	3
	貼る	2
	うつ（撃・打、等）	2
	討つ	2
	その他の動詞	39
	総計	2651

注「その他」は各1例

かむ（鼻を）、さばく、できる、わかる、引く、隠す、歌う、会う、覚える、楽しむ、割る、願う、交わす、斬る、示す、手放す、習う、出す、出る、焼く、乗る、振る、吹く、掻く、送る、続ける、打つ、置く、調べる、剃る、吐く、塗る、当る、売る、備わる、編む、遊ぶ踊る、浴びる

表2を見れば、97%以上の動詞が「飲食」「取得・保持・生産・装着」「情報発信」「知覚・受信」「動作内容+ガ+動詞」で占められていることが分かる。言い換えれば、それ以外の動詞については～ガ+V+タイの形式を非常に取りにくいということが分かる。

表2 動詞の種類別の～ガ+V+タイの集計（BCCWJによる）

動詞の種類	用例数	百分率
飲食	563	21.24%
取得・保持・生産・装着	129	4.87%
情報発信	217	8.19%
知覚・受信	984	37.19%
動作内容+ガ+動詞	696	26.25%
その他の種類	62	2.34%
総計	2651	100%

では～ヲ+V+タイの文型における動詞の比較を行う。サンプルとして「飲食」から「タベル、ノム」、「取得・保持・生産・装着」から「トル、ツクル」、情報発信から「イウ」、知覚・受信から「キク、シル」、そして主体の外部に対象物が指定される動詞として「ノコス、オクル、コロス、ミセル」を選んだ。その結果が表3である。

表3

		ガ	ヲ	合計	ガの割合
飲食	タベル（食）	414	197	611	67.76%
	ノム（飲・呑）	100	102	202	49.50%
知覚・認識	キク（聞・訊、等）	226	476	702	32.19%
	シル（知）	364	797	1161	45.67%
情報発信	イウ（言）	206	313	519	39.69%
取得・産出	トル（取・撮、等）	30	356	386	7.77%
動作内容+V	スル	614	2747	3361	18.27%
他に対する働きかけ	ノコス（残）	0	86	86	0%
	オクル（送・贈）	1	132	133	0.45%
	コロス（殺）	0	61	61	0%
	ミセル（見・観）	0	118	118	0%

※オクルからは「時間を過ごす」の意（人生を送る、等）は除いた。

表3から明らかなのは、飲食、知覚・認識、情報発信などにおいては～ガ+V+タイの形式が相応の勢力を有するのに対して、ノコス、オクル、コロス、ミセルにおいてはほとんど、あるいは、全くそれが用いられず、専ら～ヲ+V+タイが用いられていることが分かる。

タイ構文が表す意味は、そのような希望を持つという心的状態と、それが具現化される現実的動作と、その両面が共存するものと考えることができる。そして～ガは心的状態の方が強調され、～ヲは動作性が強調される。俺の言うところの「他動性」の強弱は、動作主が現実的な対象物に対して働きかけるということ、言い換えれば、動作主が対象物に対して働きかけるという有様が顕在化するという意味を意味しているのではないかと解される。この意味で「他動性」は、他に働きかける「動作性」の顕

在化と読み替えることができるのではないかと考える。そして他動性の強い動詞の場合、タイが接続しても動作性が意識されるためにガに置き換えができず、そして他動性が低い動詞の場合、希望概念（～タイ）のうち心的状態の方が意識され、そのためにガと置き換えがしやすくなる、ということなのではないか、と考えられる。

タイ構文に見るガへの交替の許容性（つまり状態概念化）の条件はヤル+テイル、売ル+テイルのそれとは異っている。ヤツテイル、売ツテイルの場合、「主体の後景化」することがガへの交替の条件である。一方、タイ構文の場合、タイに上接する動詞に他動性という意味的側面がないことがガへの交替の条件である。

他動性の高い動詞を用いたタイ構文で～ガ+V+タイの文型を用いるとき、ガ格で表示されることに違和感が生じる。

- ⑭（再掲）（デトロイト・タイガースとしては、有力投手である）この二人が投げていない試合が勝ちたい。
- ⑮（再掲）（好きな人へ送るメールがうまく作れません。長く続けたいんですが、どうすればいいですか？ コツは？ という問いに対する答え）
長いメールが送りたいのか、メール交換を繰り返したいのか、どちらか分かりませんが、最後を疑問形にすれば、相手から返事が返ってきますよ。「～なの？」と聞けば、相手のことももっと知る事ができます。

⑭、⑮は表現意図としては総記であろうが、違和感のある表現であろう。

IV結び

以上述べてきたことを整理すると、以下の3点に集約される。

- (1) 気になる「誤用」の正体：動作性概念を持つ（状態性概念が感じられない）述語に対して、主体が働きかけるべき対象者をガによって表示される場合に、不自然さを生じる。この不自然さは、表現者がとりあえず念頭にある要素をガによって表示しながら、それに見合った述語（状態性の述語）によって言い収められない場合に生じる。
- (2) 「誤用」の社会的背景：こうした誤用が生じる心理的・社会的背景としては、「総記の拡大用法」については動詞との格関係を見無視して総記の意味を強調しようとする時に誤用が生じる。「とりあえずの格表示」の場合は、メディアなどで、少ない準備時間でコンパクトにコメントを求められる時に、とりあえずの格表示をしようとして、主要な格成分の中でもっとも最初に来る格助詞であるガによって表示をしようとするということが考えられる。またSNSの発達により、正確な表現よりもレスポンスの速さが求められる中で、格関係が乱れていることも可能性としては考えられる。
- (3) 述語の状態性の程度：ヲーガの交替が生じた場合、述語が状態性述語であれば自然らしくなり、動作性述語の場合不自然になる。しかし何をもって「状態的」と

見なされるかは一律ではない。テイル型の場合、動作の結果の状態において主体の存在が後景化する場合に「状态的」となる。タイ構文の場合は他動性が低い場合に「状态的」となる。

注1 ～ヤスイに係る成分の助詞のゆれ（ガ/ヲ）については井上次夫 1998 に指摘がある。

注2 『明鏡国語辞典』第二版（北原保雄編、大修館書店 2010）では「おえる 三（動詞連用形に付いて複合動詞を作る）」の件の説明で、「「終わる」ともいうが、「終える」のほうが動作主の意図が強く出る。」と説明している。しかし裏を返せば、動作主の意図の動作に「～おわる」が接続し得る、とも解される。ただし「～おわる」「～おえる」に係る格成分についての説明は特でない。

注3 テイル形における助詞の交代現象についてはすでに揚妻祐樹 2014 で論じた。漢語サ変動詞の中でも自他のゆれ一格助詞で言えばヲとガーの間に揺れが認められるものがある（小林英樹 2004、張志剛 2014 参照）。外来語＋サ変動詞にも同様のゆれが認められる場合がある。いずれにしても、述語の意味が、主体の動きと見るか、状態の変化と見るかのゆれである。

注4 ある番組で、ラーメン店の店員が、麺に使う粉について「粉が、うどんが使う粉なんです。」と言っていた（マツコ&有吉のかりそめ天国 2時間SP 2020.12.9）。そしてテロップでは「うどんが使う粉」と表示された。ガの誤用が文字表記にまで進行している例と考えられる。

注5 アンリ・フレエ、小林英夫訳『誤用の文法』（みすず書房 1973、Henri Frei “LA GRAMMAIRE DES FAUTES”, Paris-Genève, 1929）

注6 小松英雄 1999 は、ら抜き言葉が日本語の歴史の中で表現者たちが表現の合理性をもとめた結果であることを主張している。

注7 ㊸㊹の例は、金澤裕之 2007 が指摘するヤリモライ表現のこんな蘭の例と解することもできる。

注8 筒井康隆 1983 はメディアの中の奇妙な言葉を取り上げているが、その中で当時横行していた「ずばりうかがいますが」「ひとことと言って」「あなたにとって〇〇とは」など、相手に対して間を置かずにコンパクトな返答を強いる表現を分析している。

注9 読売新聞「読解力転落ショック」（2019.12.4）で紹介された「千葉市の公立中学校で国語科を教える男子教諭（36）」のコメントでは「読み込めていなくても、早く反応することを重視している」とある。また読売新聞「文章を作れぬ若者」（2019.12.5）においても学生のレポートのテニヲハの乱れについて指摘されている。この記事のなかで、藤本かおる氏（武蔵大学・準教授）はLINEの影響を指摘している。レスポンスのスピードが重視され、結果として、文法的な正確さは閑却されるのであろう。ただし、SNSにおける格関係の中で、ガが勢力を増しているかどうかについては未調査である。

注10 現在は非文だろうが、今後自然になる可能性のあるものとして、例えば、「犯

人が（を）つかまえている」「きれいな石が（を）拾っている」「用例が（を）採集している」など、捕獲、収集を表わす動詞などはどうだろうか。捕獲・収集をする時は主体が顕在化しているが、その結果の状態においては、もはや主体は後景化している。

注11 庵功雄 1995 においても同種の調査がある。これは電子コーパスが整備される前の調査であり労作であるが、電子コーパスを用いた調査が可能になった今日、あらためて調査し直す意味があるかと思ひ調査した次第である。

注12 この調査の問題点は、一つには、V+タイに係る～ガ/ヲの間にほかの成分が介在している場合は調査対象から外れることである。もう一つは～ヲの集計処理をしていないことである。これらの問題は一重に調査の効率性を優先したことにより生じた問題であった。特に後者については、BCCWJにおける検索結果が～ガ+V+タイが3725例に対して～ヲ+V+タイが19228例（いずれも本研究の趣旨に合わないものを含む）であり、～ヲについては整理分析する余裕がなかった。よって本研究のような処置をとった。しかし、本研究のような調査によっても、大まかな傾向はつかめるのではないかと考える。

参考文献

- 揚妻祐樹 2014：「「お店がやっていない」—現代日本語における助詞ガへの交代現象—」（『藤女子大学国文学雑誌』90、2014.3）
- 庵功雄 1995：「ガ～シタイとヲ～シタイ—格標示のゆれに関する一考察—」（『日本語教育』86、1995.7）
- 井上次夫 1998：「傾向を表す表現について—～がちだ・～ぎみだ・～やすい—」（『奈良教育大学国文：研究と教育』21、1998.3）
- 金澤裕之 2007：「[研究ノート]「～てくださる」と「～ていただく」について」（『日本語の研究』3-2、2007.4）
- 久野暉 1973：『日本文法研究』（大修館書店）
- 小林英樹 2004：『現代日本語の漢語動名詞の研究』（ひつじ書房）
- 小松英雄 1999：『日本語はなぜ変化するか—母語としての日本語の歴史—』（笠間書院）
- 佐伯哲夫 1975：『現代日本語の語順』（笠間書院）
- 座安浩史 2015：「格助詞の後ろに付くウチナーヤマトウグチ「ガ」の用法—石垣市方言を具体例に一」（『國學院雑誌』116-9、2015.9）
- 張志剛 2014：『現代日本語の二字漢語動詞の自他』（くろしお出版）
- 筒井康隆 1983：「現代の言語感覚」（筒井康隆『言語感覚』中央公論社、所収）
- 〈あげつま ゆうき／本学教授〉